



1 題材 形式と音楽(多声音楽と和声音楽)

2 目標

(1) 楽曲の仕組みや特徴に興味を持って鑑賞活動しようとしている。

(音楽に対する関心・意欲・態度)

(2) 多声音楽と和声音楽の特徴を感じ取ることができる。(表現の工夫・音楽的な感受)

(3) 楽曲の仕組みや特徴を理解し、多声音楽の響きの豊かさを味わって聴くことができる。

(鑑賞の能力)

3 指導観

- 1学年では「素材と音」というテーマでさまざまな声や楽器の音色の特徴・構造・発音原理について学習してきた。2年生ではさらに「形式と音楽」というテーマで学習を進める。前時まで「夏の思い出」を教材として、二部形式について学習してきた。これにより生徒は音楽が形式に従って作曲されていることに気づき、楽曲に接する際にその構造に着目することを学んだ。今回は単旋律音楽、旋律を絡み合わせる多声音楽、そして和音を使用する和声音楽の3つを比較することによりさらに複雑な楽曲の仕組みを理解させることをねらいとして本題材を設定した

教材として取り扱う「小フーガト短調」は4声部構成の多声音楽である。主題は長いが生徒が親しみをもつ旋律になっている。比較的小曲で集中して鑑賞するのに適していると考えた。また表現活動を取り入れることで多声音楽をより理解できるよう「カノン1」を取り入れた。この曲はリコーダーが苦手な生徒でも容易に演奏できることから選定した。多声音楽と和声音楽の特徴を感じ取る聴き取りテストではJ・S・バッハと同じバロック時代の作曲家であるヘンデルの「ハレルヤコーラス」を取り上げている。

- 本学級の生徒は男子19名、女子16名、計35名のクラスである。合唱のパート練習やリコーダーの練習などに積極的に取り組んでいる。また鑑賞の授業ではワークシートの各設問に意欲的に取り組んで自分なりに感じたことを文章で表現できる生徒が多い。しかし楽曲の構成や形式に関心を持ちながら鑑賞するまでには至っていない。
- そこで指導にあたっては、リコーダーによる表現活動を取り入れながら、多声音楽と和声音楽の違いを理解させたい。また聴き取りテストを行うことによって多声音楽と和声音楽の違いを感じ取らせたい。生徒にとっては難しい題材なので板書に工夫をしながらわかりやすく取り組ませたい。また楽曲全体の構成についても調の変化(短調から長調へ)を感じ取らせるとともにバスパートの足鍵盤での演奏に注目させながら3部構成ということを理解させたい。これは次に学習する「ソナタ形式」(交響曲第5番ハ短調作品67)へと発展するものである。

4 教材

小フーガト短調

作曲 J・S・バッハ

「カノン1」

オラトリオ「メサイア」より「ハレルヤ コーラス」
3声のインヴェンション

作曲 ハウプトマン

作曲 ヘンデル

作曲 J・S・バッハ

5 指導計画（2時間計画）

第1次（1時間）・・・・・・・・・・・・・・・・・・本時

- ・多声音楽と和声音楽の仕組みについて理解させ、その特徴について感じ取らせる。
- ・主題をつかませるとともに、第1部の構成について理解させる。

第2次（1時間）

- ・「小フーガ短調」の楽曲構成を理解させる。
- ・多声音楽の豊かな響きを感じ取らせる。

6 評価計画（評価規準）

観点		関心・意欲・態度	表現の工夫 音楽的な感受	鑑賞の能力
評価規準		・多声音楽や和声音楽の特徴に興味を持って鑑賞することができる。	・多声音楽と和声音楽の特徴を感じ取ることができる。	・多声音楽と和声音楽の違いを理解し、単旋律と和声の相違を感じ取りながら鑑賞することができる。
具体的評価目標及び評価方法	第1次	・多声音楽と和声音楽の違いに興味をもち、活動に取り組んでいる。 (発表・ワークシート記入)	・多声音楽と和声音楽の特徴を感じ取ることができる。 (発表・ワークシート記入)	・多声音楽と和声音楽の違いについて理解でき、多声音楽と和声音楽の相違を感じ取りながら鑑賞することができる。 (発表・ワークシート記入)
	第2次	・3部構成のそれぞれの部分の特徴に興味をもち、学習に取り組んでいる。 (発表・ワークシート記入)	・主題の調の変化やパートの変化を感じ取ることができる。 (発表・ワークシート記入)	・主題の移り変わりや変化を感じ取りながら鑑賞することができる。 (発表・ワークシート記入)

7 学習指導の展開

(1) 第1次の目標

- 和声音楽と多声音楽について理解し、それぞれの違いを聴き取ることができる。
- 「小フーガト短調」の第1部の楽曲構成について理解することができる。

(2) 学習指導の展開

段階	学習内容及び学習活動	予想される生徒の反応	学習形態	学習指導上の手立て	評価の観点及び方法	資料準備
導入	1 「カノン1」を単旋律、2声、3声、4声および伴奏に合わせて演奏する。	・単旋律の響きもきれいだけ ど旋律が重なると違った美しさがあるな。 ・伴奏に合わせて演奏すると多声音楽とは違う響きになるな。	一斉 個人	○単旋律の響きと比較することによって多声音楽の響きの美しさを感じ取らせる。 ○多声音楽と和声音楽という理解しにくい部分なので表現活動を取り入れることによりわかりやすく説明する。	・多声音楽の響きの美しさを感じることができる。 (観察) ・多声音楽や和声音楽の特徴を理解することができる。 (観察)	リコーダー 掲示物
展開	2 本時の目標を知る。			○本時の目標を明確につかませるために黒板に掲示する。		掲示物
	3 ワークシートの聴き取りテストを行う。	・難しいな。 ・メロディが追いかけてっこしているな。	個人	○繰り返し聴かせて違いを感じ取らせる。 ○理解したことを感覚的に感じ取ることができるかを自己評価させる。	・多声音楽や和声音楽の特徴を感じ取ることができる。 (ワークシート) (自己評価)	ワークシート CD
	4 「小フーガ短調」の1部をワークシートの設問4の①②を考えながら鑑賞する。	・何回だろう。 ・音はだんだん低くなっているぞ。	一斉 個人	○設問を考えることで第1部の構成が理解できるので、設問の内容をしっかり把握させる。	・第一部の構成を感じ取ることができる。 (ワークシート)	ワークシート CD

終 末	5	ワークシートの設問 5 をまとめる。	・第1部は主題を示している。 ・4つの声部で構成されているんだな。 ・ソプラノ、アルト、テノール、バスの順に出てくるな。	一斉	○ ワークシートをまとめることによって1部の楽曲構成について理解させる。	・第一部の構成を理解することができる。(ワークシート)	ワークシート
	6	本時の目標が達成できたか確認する。		一斉	○ ポイントとなることを質問して発表させながら定着を図る。	・本時の目標を達成している。(発表 観察)	
	7	次時の予告を聞く。		個人			